

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

東アジア聖公会協議会総会に出席して

主教 アンデレ 中村 豊

東アジア各聖公会から、主教、聖職、信徒1名の代表と、青年1名のオブザーバーで構成される4年に一回の総会は、「東アジア聖公会の福音宣教」をテーマに、マレーシアのクチンで開催されました。日本聖公会からは、主教代表として私が、聖職では相澤管区事務所総主事が、信徒からは八幡真也管区事務所渉外主事が、青年からは九州教区久留米聖公会信徒の小川麻衣姉が参加しました。

日本聖公会プレゼンテーション

会議前半は、各聖公会の宣教について、約1時間の発表が義務付けられました。日本聖公会は二日目の午前中が割り当てられ、前半は、日本聖公会の歴史・現状・将来的展望について述べ、後半は、東日本大震災のビデオを上映しました。

ここ3、40年、日本におけるキリスト者人口が1%以下に低迷していること、日本聖公会では、堅信者と逝去者が毎年、ほぼ同数を推移し、現在受聖餐者数が次第に減少し、これに比例して、教会財政が厳しい状況下に置かれていること、宣教について真摯な見直しを、来年開催される宣教協議会で協議される予定になっていること、などを述べました。

日本聖公会歴史のなかで、1940年のプロテスタント合同問題に端を発した聖公会の苦悩について述べました。日本占領時代、アジアの国、特に、フィリピンやパプア・ニューギニアでは、軍隊が、聖公会聖職・信徒に対して残虐行為を繰り返しましたが、同じ時期、国内の聖公会聖職・信徒も苦しい立場に立たされていたという事実初めて接した人が多くいたようです。

各国の宗教事情

各聖公会発表の後、グループに分かれて聖公会の宣教課題について分かち合いました。日本は、キリスト者人口が極端に少ない国ですが、信教・集会の自由は保障されています。しかし、マレーシアのように、イスラム教が公認宗教である国では、教会の振る舞いがイスラム教徒の敵愾心を煽るのです。イ

□会議・プログラム等予定

(10月25日以降および
前回報告以降追加)

- 10月
17日(月) 文書保管委員会
17日(月) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」小会合
18日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」小会合
25日(火) ~ 27日(木) 各教区人権担当委員会〔仙台〕
27日(木) ~ 28日(金) 宣教協議会実行委員会
28日(金) 58-9 常議員会
31日(月) MtS東アジア協議会会議
- 11月
4日(金) ~ 5日(土) 「教会女性のためのリトリート」〔京都教区センター〕
4日(金) 東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会〔横浜山手聖公会〕
7日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト
10日(木) ナザレ修女会を支える会
10日(木) 財政主査会
11日(金) 西日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会〔神戸聖ミカエル教会〕
13日(日) ~ 14日(月) 青年委員会〔中部教区センター〕
15日(火) 礼拝委員会
15日(火) ウィリアムズ主教記念基金運営小委員会〔立教〕(中止)
17日(木) 主事会議
18日(金) 58-10 常議員会
29日(火) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会
- 12月
1日(火) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕
6日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会
8日(金) 文書保管委員会
8日(金) ~ (土) 各教区財政担当者連絡協議会〔牛込聖公会聖バルナバ教会〕
12日(月) 教区間協働デスク会議

スラム教徒をキリスト教に回心させることは禁止されており、キリスト教主義学校といえども聖書を教えることはできません。授業が終わり、生徒がバスに乗り込む僅かの時間をとらえて聖書の時間とするのです。聖書も国内で印刷できません。マレーシアキリスト教協議会が外国でこれを印刷し、国内に持ち込んだところ、これに激怒したイスラムの人たちは、11の教会を焼き払いました。日本では、99%の人たちにキリスト教を伝えることが大きな課題ですが、95%以上がキリスト者で占められるフィリピンでは、人びとをキリスト教に回心させるという問題は存在しません。従って、これが福音宣教における最優先課題であるという共通理解は得られないのです。

(前頁より)

14日(水) 主事会議
 <関係諸団体会議等>
 10月19日(水) JEDRO
 (=Japan Ecumenical
 Disaster Response Office)
 会議 [NCC]
 11月4日(金) 日本キリスト教連合会常
 任委員会
 11日(金) NCC分かつち合い委員会
 12月2日(金) NCC常議員会



日曜日の出来事

10月10日日曜日、クチンから車で30分の、とある村にある聖ヨハネ教会の礼拝に参加しました。途中、その教会の伝道所の庭に2人の信徒



聖ヨハネ教会にて、礼拝後。

が立っておりましたので、挨拶がてら、礼拝堂を見学しました。この伝道所に司祭は、月一回しか、主日に聖餐式を執行できません。他主日は、信徒奉仕者が交代で礼拝を守っているということです。これは日本でもよく聞く話ですが、毎主日、約100名の人たちが礼拝に出席すると聞いて驚きました。

午前8時に開始された聖餐式には、司式者・補式者、聖歌隊、サーバー、アコライト併せて約30名が入堂し、約300名の信徒が礼拝堂に詰めかけました。これだけ多くの会衆なのですが、オルガンなしで聖歌を歌いました。

礼拝後、サーバーをしてくださった人が私たちを昼食に招待してくださいましたが、この方は1920年、日本からこの地に移り住んできた木村さんという方のお孫さんだったのです。応接間には、マレーシア料理とお酒が用意され、木村家一族約20名が次々と私たちの前に現れ、大歓迎を受けました。帰り際に、「聖公会信徒は、イスラムの人たちに負けないように、強く、たくましい信仰が必要なのです」と言われた、木村さんの言葉が印象に残りました

総会では、次期協議会長にポール・クワン香港聖公会首座主教が選ばれ、来年は台湾を会場にして主教会が開催される運びとなりました。



木村さん宅にて。左から3番目が木村さん。

5という数字が示すもの ～ひとつの黙想として～

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

総主事はさまざまな会議、会合、研修会、また、お付き合いに参加することが求められます。大変なこともあり楽しいこともあります、それは大きな学びの時でもあります。

先日、日本キリスト教連合会が主催する「法人事務・会計実務の研修会」に世話役として参加しました。これはカトリック教会、プロテスタント諸教会からの参加者が集まる2泊3日の研修会です。事務が苦手であると言われる教役者もいますが、得手不得手は当然にあることです。それは仕方がないことですが、問題は、その不得手が高じて、そこから事務は不必要であるとか、優先順位が下に置かれ、その作業が遅くなる、滞るといったことが生じることにあると思います。

一人の講師が、「小さな節約、大きな損失」ということを言われました。事務を知らないと、節約してみたいけれども大切な手続きが為されていないので、大きな損失を招くことがあるということです。象徴的な言い方でしょうが、為すべき事は何かを知らなければ不必要な損失を招くということの戒めであると思います。

教会の事務・会計は、宣教の働きの中の大切な一つの部分を構成しているのだと思っています。教区事務所で働いておられる方々、また、各個教会でさまざまな教会事務の働き、奉仕をなさっておられる方々、その奉仕が、教会の宣教活動の大切な一面を担っているのだと再確認し、自信を持って欲しいと思います。管区事務所もその思いで日々を過ごしています。

この研修会の礼拝の中で語られた一つの話が私の心に染み込み、想いを広がらせてくれました。ダビデとゴリアテ（サムエル記上17:40）の物語が取り上げられ、ダビデがゴリアテ

と戦うために川岸から拾った石が5つであったということ、これが何を示しているかということ、少年ダビデが巨人ゴリアテに戦いを挑む、その為に用意したものが5つの石であった。それは、自分にとっての精一杯の、また身の丈にあった準備であったというお話でした。不十分であるかもしれないけれども精一杯の準備をしたということ、それをこの5という数字が示しているということです。そしてそのひとつを用いて、ゴリアテを倒したのです。

そこで、五千人の養いの奇跡物語が浮かんできました。ヨハネ福音書ではこの奇跡が行われた前提として、少年が持っていた5つのパンと2匹の魚を捧げたことが記されています。この捧げものでは五千人に食べさせるためには全く不十分の量でした。もちろんこの考えは人間側のものです。何故なら、イエス様はこの捧げものを用いて、そこにいた皆が満足する十分なものを与えてくださった奇跡を起こされたからです。事柄の成就には不十分であるかもしれませんが、しかし自分としての精一杯の捧げもの（準備）をしたということ、それを用いられたということが語り示されているのではないのでしょうか。

聖書の中にはこのほかにも5という数字はたくさん出てきますが、すべてがこのようにことを指し示してはいないでしょう。4とか7とか12とか40という聖数、完全数と同じように理解することはできませんが、しかし、私たちの想いを豊かにする一つの見方ではないかと思いました。

翻って思うことは、教会事務は、わたしたちの側での精一杯の準備、捧げものひとつなのではないかと思っています。教会の働きの根底を支えるものでもあると思います。

キリスト教連合会のこの研修会は毎年10月

に開催されています。どうぞ一度参加してみてもいかがでしょうか。小さな節約に励むが、大きな損失を被らないためにも、宗教法人として知るべきことを知り、その準備を続けていくことが大切なことだと思います。



□主事会議

第58(定期)総会期第16回、10月13日(木)

[主な協議事項]

- 2011年度大斎大斎克己献金の配分に関して次のとおり決定した。

(単位：千円)

大斎克己献金予算(収入予算21,000千円)

2010年実績 2011年

1〈国内伝道強化のため〉	10,000	10,000
2〈海外教会宣教協力〉	8,500	7,000
(1) 日本聖公会緊急災害援助資金	2,000	2,000
(2) 海外在住日本人宣教	1,000	1,000
(4) 協働エキュメニカル活動のため	1,500	500
(5) 日韓聖公会協働プロジェクト	500	500
(6) アジア・アフリカ支援	1,000	500
(7) アジア太平洋平和・和解資金	500	500
(8) 重債務国開発協力資金	2,000	2,000
3〈国内宣教協力費〉	3,300	3,300
(11) 宣教と奉仕活動のため	1,000	600
(12) 聖公会生野センター	1,000	700
(13) 宣教150年記念礼拝積立	—	—
(14) プレ宣教協議会のため	1,000	—
(15) 宣教協議会のため	1,500	—
(16) 平和宣教教育活動資金	500	—
(17) その他	300	—

4〈大斎克己献金募金費〉 700 700
合計 22,500 21,000

- 紀伊半島地方の台風(9月、台風12号による)被害者への見舞金に関して
災害時には、さまざまな被害のケースが想定され、見舞金支出の判断基準を定めるのは難しいことを認識しつつも、大きな災害があったときには可能な範囲で柔軟に対応することとし、日本聖公会緊急災害援助資金より、見舞金を支出することとした。
- 手話の会に対しての管区からの補助に関して
手話の会の活動に対して補助金を出すこととした。
支出科目：大斎克己献金「宣教と奉仕」
- タイの水害(10月、豪雨による)救援見舞金に関して
タイの水害救援見舞金を日本聖公会緊急災害援助資金より送ることとした。
金額：500,000円 送金先：ACROSS
次回以降の会議
11月17日(木)、12月17日(木)

□各教区

北海道

- ・第70(定期)教区会 2011年11月22日(火)17時半～23日(水)16時 北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会)

東北

- ・東北教区宣教120年記念礼拝「神は言われた、『光あれ』」(創1:3) — 各地で合同礼拝を行う ①9月11日(日)郡山聖ペテロ聖パウロ教会、②9月18日(日)秋田聖救主教

会、③9月25日(日) 鶴岡聖公会、④10月9日(日) 仙台聖フランシス教会、⑤11月20日(日) 10時半 盛岡聖公会、⑥11月26日(土) 17時(予定) 青森聖アンデレ教会

北関東

・第78回(定期) 教区会 2011年11月23日(水) 10時半～17時 志木聖母教会

東京

・第117(定期) 教区会 2011年11月23日(水) 9時～17時 聖アンデレ主教座聖堂、聖アンデレホール

横浜

・聖職按手式 2011年12月3日(土) 10時半 横浜聖アンデレ主教座聖堂 説教者: 司祭 広谷和文 司祭按手 志願者: 執事 バルナバ吉川智之、執事ミカエル大居雅治、執事 ダビデ渡部明央

中部

・第83(定期) 教区会 2011年11月23日(水) 9時～16時 主教座聖堂名古屋聖マタイ教会

大阪

・第106(定期) 教区会 2011年11月23日(水) 9時～17時 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

神戸

・第79(定期) 教区会 2011年11月23日(水) 8時～17時 神戸聖ミカエル大聖堂

沖縄

・第55(定期) 教区会 2011年11月22日(火) 18時～23日(水) 15時 日本聖公会 沖縄教区センター

□神学校

聖公会神学院

・創立100年記念感謝礼拝 2011年10月29日(土) 14時 聖公会神学院諸聖徒礼拝堂
司式: 理事長 植松誠主教 説教: 元校長・前理事長 竹田真主教



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 マルコ小池俊男(大阪教区・退職) 2011年7月28日(木) 逝去(102歳)

※前号で掲載できませんでした。申し訳ありません。

📖 出版物案内

・『2012年度 教会暦・日課表』
2011年10月1日付発行 価 280円(税込)

《人 事》

東北

主教 ヨハネ加藤博道 2011年9月30日付 室根聖ナタナエル教会管理牧師の任を解く。
司祭 ピリポ越山健蔵 2011年10月1日付 室根聖ナタナエル管理牧師に任命する。
司祭 パウロ中村 淳(東京教区、日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こう!プロジェクト」特命担当主事) 2011年10月1日付 日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こう!プロジェクト」特命担当主事として仙台オフィスで勤務する間、東京教区の2011年10月1日付辞令に従い、東北教区主教の指示と指導のもとに職務を執行することを認める。

東京

司祭 フランシス下条裕章	2011年8月15日付	浅草聖ヨハネ教会牧師の任を解き、聖アンデレ主教座聖堂勤務命令
司祭 ビード李 民洙	2011年8月15日付	浅草聖ヨハネ教会協力司祭解任
司祭 シモン・ペテロ上田憲明	2011年8月16日付	浅草聖ヨハネ教会管理牧師任命
<信徒奉事者認可および分餐奉仕許可>		
	2011年4月1日付	
(三光教会)	安部信夫、大越保正	

横浜

執事 ペテロ松田 浩	2011年9月24日	司祭に按手される
司祭 ペテロ松田 浩	2011年9月24日付	柏聖アンデレ教会副牧師任命

中部

聖職候補生 フランシス江夏一彰	2011年9月5日付	軽井沢ショー記念礼拝堂牧師テモテ土井宏純のもとで勤務することを命じる。
-----------------	------------	-------------------------------------

大阪

司祭 モーセ任 大彬	2011年9月16日付	願いにより復職を許可し、主教座聖堂付とする。
------------	-------------	------------------------

司祭 フランシス チョウ・ジョンピル	2011年9月25日付	健康上の理由により、恵我之荘聖マタイ教会牧師の任を解き、休養を命じる。
--------------------	-------------	-------------------------------------

主教 サムエル大西 修	2011年9月25日付	恵我之荘聖マタイ教会管理牧師に任命する。
ヤコブ義平雅夫	2011年10月1日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。

神戸

司祭 ルカ伊神 努	2012年3月31日付	願いにより退職を許可する。
-----------	-------------	---------------

九州

司祭 バルナバ牛島幹夫	2011年9月30日付	直方キリスト教会副牧師の任を解く
	2011年10月1日付	直方キリスト教会牧師に任命する。
司祭 マルコ柴本孝夫	2011年9月30日付	直方キリスト教会牧師の任を解く
	2011年10月1日付	直方キリスト教会協働司祭に任命する。

《教会・施設》

真光教会(東京)	住居表示変更の訂正 (正) 町田市南つくし野 1-4-3 (変更前の番地に戻す)
----------	---

東日本大震災支援

「いっしょに歩こう!プロジェクト」
仙台オフィスから ⑤

—釜石と小名浜での活動—

事務局長 司祭 パウロ 中村 淳

最初に「いっしょに歩こう!プロジェクト」の活動紹介映像が完成し、各教区事務所に送らせていただいた事をご報告いたします。この夏までのプロジェクトの活動をまとめたものです。この映像はDVDに収録されており著作権もクリアにしておりますのでコピーしていただくことができます。ぜひ、多くの皆様にご覧いただきたくご配慮をお願いいたします。

今回は仙台圏以外の働きをご報告します。仙台圏以外では釜石と小名浜に拠点を設けています。釜石では津波被災にあった商店を賃借して釜石ベースとしています。釜石は北海道教区のご支援をいただいております、常駐者として信徒さんお一人、教役者が一ヶ月交代ペースで派遣されてきています。さらに東北教区からも月に10日以上は教役者が駐在する体制になっています。ここでの大きな特徴は被災地の真真中に拠点を設けていることにあります。また、町の中心部に位置しており、被災された方々がベースをお訪ねくださるのに便利な立地です。現在では毎日どなたかがお訪ねくださるようになりました。外部への訪問では現地とともに活動する団体、地元社会福祉協議会との連携によって調整を行っています。ここでは働き人の不足が大きな悩みです。10人程度まではベースに宿泊できます。ぜ

ひ、釜石ベースでの働きに加わってくださるようお願いいたします。

小名浜の拠点は小名浜聖テモテ教会内に置かれています。仮設の建物を用意して宿泊できるようになっています。こちらは京阪神の3教区がご支援くださり、3教区から一ヶ月交代で現地の調整者が来てくださっています。こちらの特徴は福島県にある拠点だと言うことです。福島県は放射能の問題で大きな課題を負わされていますが、ここを拠点として除染、その他の支援活動が可能だと言うことです。小名浜の現地では仮設住宅への奉仕、他の団体との協働のもとでのさまざまな活動が行われています。小名浜も活動して下さるボランティアワーカーさんを募集しています。ことに関東近郊の方は交通の便が良いのでご検討くださることをお願いいたします。

オフィスでは福島県の諸教会、諸幼稚園への支援策をまとめようと努力しています。放射線の問題はとても難しく、ひとことでこうだと言うことはできないと感じています。けれども被災者支援のために設置されている私たちオフィススタッフは、今でもそこにいらっしゃる、住み続けておられる被災された方々への支援を行うことがミッションなのではないかと考えています。避難したくてもできない方々がおられるという現実を目の当たりにしたときに、わたしたちが行うこと、行えることが何なのかを考え続けてきました。そろそろ具体的な方向性を出さなければなりません。ぜひ、このこともお覚えいただき行動が現われてくる時にご協力をお願いしたいと思います。



ホームページ

<http://nssk.org/walk/>



CCEAに参加して

九州教区 久留米聖公会 小川麻衣

私は、10月にマレーシアのクチン市で6日間に渡って開かれたCCEA（東アジア聖公会協議会）の総会に、青年オブザーバーとして参加しました。正直なところ、CCEAのことを知ったのは参加を決めてからです。英語は自信がない上に、一体どんな雰囲気なのか、青年オブザーバーの役割もよく掴めないままで、出発前は不安だらけでした。

総会のプログラムには、各教区・管区のセッションに混じって青年のセッションも予定されて

ている、という課題をどの教区・管区でも抱えているということや、青年たちにとって魅力ある教会とは何なのかを話合っているときに、「聖公会の伝統を伝えていくことが大切だ」という意見が出たのがとても印象的でした。私たちは、それぞれの違った文化を背景に、聖公会という大切な伝統を共通して持っているのだと改めて感じました。

青年活動の報告は、各教区・管区ごとの報告と「CHANNEL OF PEACE」を歌うこと、報告の前に寸劇をすることに決定しました。この「管区の報告」が私にとっては一大事です。中村主教、相澤総主事、八幡渉外主事に助けていただいて出来上がった原稿はもちろん英語。私には読む練習が必要です。今度は青年たちに発音を正してもらったり、更には簡単な資料を作ってもらったり…とひたすら周りの方の助けを借りて、なんとか形になりました。それぞれの教区・管区の青年の報告もバラエティに富んでいてとても面白かったです。

小心者の私には、とても緊張する体験でした



小川麻衣姉によるプレゼンテーション。

いました。私は、青年活動の報告担当の方がいらっしやると思い込んでいたのですが、実はこの時間は参加している青年たちでプレゼンテーションをする時間で、与えられた1時間半をどう使うかを青年たちで集まって話合うことになりました。活動報告の合間の休憩時間も、昼食の時も青年たちでの話し合いです。英語での会話についていくのがやっとの私には、言いたいことがあってもなかなか口を挟めませんでした。それでも、各教区の青年の現状を聞くのは、とても興味深かったです。

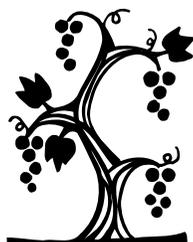
人数の差はあるものの、青年が教会から離れ



青年オブザーバー

が、この報告のおかげで青年の交流が深まり、後半は自然と青年たちで行動を共にするようになり、それぞれの教会、教区、管区を飛び越えて繋がっていくことは、私たちにとって大きな希

望だと実感することができました。この繋がりを、今後も大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。



I am the vine
You are the branches

新連載

キリスト教会におけるカルト対策 ①

管区事務所宣教主査 司祭 卓 志雄

父の涙

1997年映画「メン・イン・ブラック」が公開され大きな人気を得た。秘密組織MIBは地球に侵入したエイリアンの監視を行うが、エイリアンは地球人に成りすましているのでその追跡はなかなか難しい。これは映画の中だけの話ではない。現在隣の国、韓国のキリスト教会も似たようなことで苦しんでいる。それは教組李萬熙が創設した「新天地」というキリスト教系カルト団体によってである。聖書は例えと象徴からなっていると、聖書の例えから悟らない人は救われないと教え込む。また厳しい訓練を受けた人は既成教会の熱心な信者に成りすまし、そこで数年潜伏する。十分に信頼を得た上で、教会委員になり、気がついた時には仲間を増やしてその教会の牧師を解任し、教会委員を追い出し、「新天地」の牧師を連れてきて教会の財産と信者を丸々乗っ取る、所謂「山移し」という手法を使う。大韓聖公会のある教会にも一部の「新天地」の信者が潜入し「山移し」を試みたが、

他のプロテスタント教会とは違う政治制度である主教制のため諦めたという話もある。まだ日本で被害が出た報告はないが東京、福岡、長崎、山形で活動を展開している。

この団体の悪行を告発する韓国のテレビ局の番組を観たことがある。若者を誘い、家から出て自分たちのために献身するように洗脳する「新天地」に愛娘を奪われた父の「涙」を忘れることができない。大切に育てた娘が「あなたとは宗教上の見解が合わないの、しばらくキリスト教教会には行かない」とのメモを残したまま家を出てしまった。娘からは何の連絡もない。1年365日「新天地」の施設の前で娘を返すように1人でデモをする。記者は父にいつまでデモを続けるかと聞く。父は涙ながら「娘が帰ってくるまで、あるいは私が死ぬまで」と涙ながら答えた。それは痛みと悲しみから溢れ出てくる涙であった。

日本にも痛みと悲しみから涙を流す人がたくさんいる。それは世界基督教統一神霊協会(以下、統一協会)を始めとするカルト団体によって

家族、財産そして魂を奪われ人々、またその家族である。ここでは統一協会を中心としカルトの本質、実態、教えなどを取り上げたうえ、わたしたちはどのように取り組んでいくべきかについて述べたい。

日本における「統一協会」の実態

・伝道、入信 ーいわゆる靈感商法ー

道行く人に「手相の勉強をしています」、「生活意識調査です。アンケートに答えてくれませんか?」と声をかける統一協会は、関心を示した人には実際に手相をみたりしては「転換期の相が出ています。転換期は大事です。」と言う。さらに「よい先生がいます」と彼らの教育現場である「ビデオセンター」に連れて行き、先生といわれる人が手相をみて、人生の転換期から因縁話をして「先祖が苦しんでいる。その先祖の因縁を解怨しなければならぬ。そのためには…」と言って数珠や印鑑を買わせる。さらにイエス・キリストの物語のビデオを見せるなどして徐々に統一協会の教えを教え込んでいく。このような期間には統一協会であることをまだ教えない。つまり、統一協会は正体を隠して伝道活動をし、因縁話で恐怖感をあおり、統一原理を教え込んでいくのである。

教え込みの期間も「健康に良い」などと言って高麗人参茶とか、宝石や着物、絵画等の展示会に誘い、購入させたりしてからようやく統一協会の教祖である文鮮明が「再臨のメシア」であり「文先生は地上天国を作るために力と涙を注いでいます。そのためにあなたの大切なものを献げるとよい、先祖もそのことを望んでいます」と言う。その度に「これに参加しなければ日本は大変なことになる。先祖が霊界で苦しんでいる」と言って恐怖感をあおって物品を買わせたり、多額の献金をさせたりしている。中には1人で数十億や数億を献金や物品の購入に使われた人もいる。そのために数社のローン会社からカードでお金を借りる人もいる。多額の献金をしたり、物品を購入したりした人が、その教えに騙されたこ

とを知り、献金した金額と購入した物品の金額の返還を求めて裁判所に提訴する場合もある。「全国靈感商法対策弁護士連絡会」によると、1987年から2010年まで、各地の弁護士や消費者センターに寄せられた被害相談は、32,283件。被害金額は111,681,887,329円になるという。しかしこれらは相談から集計した数字であって全体の被害の氷山の一角でしかない。これが「靈感商法」と言われるものである。

・合同結婚式

日本における統一協会の問題のもう一つは合同結婚式である。1960年代日本では「親泣かせの統一協会」と言って報道され始めた。若者が入信し、大学や会社を辞めてその活動に専念し、自宅に帰って来なくなったことに対して親たちが騒ぎ出したからである。統一協会は入信した若者に対して文鮮明が指名した相手と結婚をするように指示する。相手はどここの国で、どのような人か全く分からないまま韓国で行われる合同結婚式に参加して、初めて会った人と一緒になる。1985年代以降の数年間、日本の歌手や体操選手など有名人が信者になり合同結婚式に参加し、日本の社会は大騒ぎになった。カトリック教会から破門になったザンビア出身のミリング元大司教も合同結婚式に参加し、韓国女性が結婚相手となったことは日本においても報道された。

今も行われている合同結婚式によって韓国の男性に嫁いだ日本人女性（現在7千人と言われている）は幸せな毎日を送っていると統一協会と言うが、ある確かな情報筋によると、韓国で生活している彼女たちの大半が貧困と夫の暴力等で悲劇的な生活をしていると言われている。中には消息の分からない人もいる。統一協会では、人間の原罪は創世記3章のアダムとエバが悪魔であるルーシェルと性関係をもったことから始まったと言う。それによって悪なる子女が繁殖したが、それを善なる子女に変えるためには文鮮明による血統の転換、すなわち「合同結婚式」が必要であるとしている。



道行く人に「手相の勉強をしています」、「生活意識調査です。アンケートに答えてくれませんか?」と声をかけている統一協会の信者



統一協会の合同結婚式



先祖の因縁を解怨をしなければならないといって数十万円で販売されている印鑑

(写真は卓司祭提供)

日本여성 참결혼

비영리사회봉사단체 신고: 제1300호

- ♡ 초급대학 이상의 학력
- ♡ 몸·마음 건강한 분
- ♡ 직업이 확실한 청년(30세 전후)
(이혼·독신은 남·녀 - 60세 이하)

순결한 가치관의 이상적인 배우자
맺어 드립니다.

참가정실선운동: [redacted] 위원회
 ■ 상담전화: [redacted]
 ■ 상담 시간: [redacted]

日本女性 眞の結婚

非営利社会奉仕団体届: 第1300号

短期大学以上の学歴
 身体・心の健康な方
 職業がたしかな青年(30歳前後)
 (既婚独身は男・女-60歳以下)

純潔な価値観の理想的な配偶者
 結んでさしあげます。

□の家庭実践運動 ○○委員会
 ■相談電話:
 ■相談員:

合同結婚式募集のチラシ

■ 刊行物紹介

Carmen Kawano 著

伊藤ヨハネ八十二 開拓伝道者の生涯

聖ヨハネ教会の歴史

—ブラジル開拓伝道者 伊藤八十二大執事に捧ぐ—
 —聖ヨハネ教会創立75年記念・ブラジル移民100周年記念—

2008年1月、ブラジル聖公会聖ヨハネ教会は感謝と喜びのうちに創立75年を迎えた。この記念の集いに日本聖公会からは森紀旦主

教が出席されている。ブラジル聖公会機関紙 Estandarte Cristãoは「1933年1月に伊藤ヨハネ八十二司祭により創立された聖ヨハネ教会は

サンパウロ市では最初の日系キリスト教会で、日本から来た家族が住む奥地や他の州への伝道の根拠地だった。今のモダンな教会の建物は4番目のもので、初めの教会は煉瓦工場の跡に建てられ、2番目の教会は1948年鈴木威建築技師により設計された。3番目教会は1968年坪内基建築技師により設計されたが、1995年立ち退き令を受け、解体されてしまった。現在の教会は大竹ルイ建築技師によるもので2002年に完成したものである。聖ヨハネ教会は以前地域の人達から呼ばれていた「日本人の教会」ではなく、その歴史的独自性を保ちながら、このサンパウロの社会に深く根をおろしつつある。」と記している。

本書の内扉に「ブラジル開拓伝道者 伊藤八十二大執事に捧ぐ／聖ヨハネ教会創立75年記念／ブラジル移民100周年記念」と記されていることが、刊行の目的を端的に物語っている。また、前付(わが国でいう奥付)に「Japanese version」とあることから、ポルトガル語で刊行されたものを日本語版としての構成に改められたものであることがわかる。

表題が二本立てになっているのは、聖ヨハネ教会の今日までの歴史は故伊藤八十二司祭を語ることなくして成り立たず、また伊藤司祭の伝道は日本人ブラジル移民の歴史と共に在ったからである。出版・刊行に至るまでの経過と苦労は森貫五郎・聖ヨハネ教会創立75周年記念実行委員長長の「まえがき」に詳細に記されている。

伊藤司祭は1888年生まれ。長野県上伊那郡

美和村出身。東京高等商船学校を経て、聖三一神学校を卒業し、半年間徳島県佐古町聖公会講義所に勤務。後、ブラジル植民地伝道への使命を固めて1919年日本を後にする。北米にて農場や漁師方で働き、資金を貯め、実際にブラジルの地に立ったのは1923年であった。

「タイム・マシーンでスリップして、遠い過去の世界にもどり、ある開拓伝道者といっしょに、旅をしてみませんか。」(まえがき)という教会員・読者への呼びかけで始まる内容は、第I部が伊藤八十二師の生い立ちと聖職者への道、ブラジルへの旅立ち、移民との交わり、苦難と困窮の中での伝道、師と接した信徒の手記、ブラジル社会のための日本人聖職者の養成、ブラジル聖公会からの支援、戦時中の苦労、晩年の姿を23章に分けて関係者が綴る。第II部は聖ヨハネ教会の75年にわたる歴史が17章でまとめられている。三世・四世への語りかけはポルトガル語によって、またまさに「タイム・スリップして」の思によって綴られたものであろうと察せられる。Japanese versionのこともあって、一書の構成と文脈とに馴染むまでに少々時間を要したが、読み進めていくにつれて開拓伝道の原点と日本人移民の苦労がひしひしと伝わってきて、襟を正す思いのうちにページを繰った。マウリシオ首座主教・伊東宏主教・森村旦主教が並ぶ創立記念日当日の写真、また付録の写真集なども貴重である。B4判177頁。2010年・サンパウロ Maluhy & Co刊。(管区事務所広報主事・鈴木 一)